

名古屋市長 河村たかし 様

去る5月22日「生物多様性の日」に、私たちは「いきものイキイキ相生山まつり」を催しました。COP10を間近に控えたこの時期に、市内でわずかに自然の残っている相生山緑地のまん中で、「相生山とどう付き合っていくのか」をみんなで考えるきっかけをつくりたいと思ったからです。

名古屋市、名古屋市教育委員会などの後援もいただき、近隣の小学校をはじめとして幅広く、たくさんの方々のお力添えのもとに、当日は800名を超える参加者を迎えることができました。

主会場の相生山徳林寺では、早朝より相生町内の「緑地の会」を中心に、市内各区、さらに知多や奥三河からも趣意に賛同し、この3ヶ月間準備に奔走してきたスタッフ総勢80余名が待ち受け、子ども達に導かれるようにあらゆる世代の人々が新緑の光の中にいっきとあふれる姿は感動的でありました。

「探鳥会」「緑地ツアー・竹藪整備体験」「子ども樹木博士」「竹と遊ぼう」「森のえんぴつ屋さん」「森の妖精・ヒメボタル観察会」など、プログラムのほとんどは大人と子どもが一緒になって、自然の中で、自然と直に触れ、楽しみ、学び合うものでした。

みんなが相生山を再発見し、大好きになった一日になりました。

「午後のフォーラム」では、「緑地の現状報告」や「将来像についての提案」を受けて、打ち解けた雰囲気の中、多くの意見が出されました。

道路・開発によって今以上に自然(=生物多様性)が損なわれることを危惧し、民家と自然が共生してきた歴史のうえに新しい文化を築く「都市型里山」を模索する方向性などが話し合いの中心となりました。また、住民・市民・行政が協力しあっていくことが重要な課題であることも改めて指摘されました。

今回の催しをきっかけに、継続した「(仮)相生山フォーラム」が広がり、内容が深められることを期待する意見も出されています。

私たちの今回の目的は、しっかりと受け止められ、引き継がれるものと確信しています。

相生山が、これからも、子どもたちが大好きな生き物の豊かな場所であるように。

そして、生物多様性を基調とする名古屋のまちづくりの象徴となるように。

さらに、環境破壊と向き合っている全世界の人々への励ましの存在となれるように。この願いをこめて、参加者それぞれの思いを「相生山の樹」として作成し、発信します。

今日私たちは、わたしたちのおまつりの参加者を代表して、たくさんの思いを、この「相生山の樹」にたくして、名古屋市長に贈呈いたします。

2010年6月4日

「いきものイキイキ相生山まつり」参加者一同

代表 相生山緑地の会 伊藤 宏